

たまの湯の温泉について

約7千万年前の地層である花崗岩類を1,027mまで掘削し、花崗岩中の亀裂を流れる温泉脈を捉え、貴重な療養泉でもある天然温泉が湧出されています。たまの湯の温泉には塩分が含まれていますが、これは近年の海水が流入しているものではなく、古い年代の海水が岩盤及び地下水に接触変化することにより生成されているものと考えられ、含まれている成分から「温まりの湯」や「傷の湯」と言われています。ラドン成分についても、温泉湧出母岩である花崗岩を起因とすることから、温泉法の規定以上含有されており、弱放射能泉となっています。これは、全国的に見ても数が少なく、貴重で効能が高いと言われており、「万病の湯」や「痛風の湯」とも言われます。

温泉中分析結果の概要は以下のとおりとなっております。

- 源泉名 … 玉の浦温泉
- 泉 温 … 30.3℃
- 湧出量 … 140L/分
- 泉 質 … 含弱放射能－カルシウム・ナトリウム－塩化物温泉
(高張性・弱アルカリ性・低温泉)

・高張性

体の細胞液より浸透圧が高いもの(溶存物質総量10g/kg以上)。温泉成分が体に吸収されます。湯あたりにはご注意ください。

・低温泉

25℃以上34℃未満

・弱アルカリ性

アルカリ性のお湯は皮脂を溶かし角質を軟化させるため、肌がすべすべになる美肌の湯・美人の湯と呼ばれたりしています。適応症の欄には、療養ではないので加えられていませんが、化学的には不要な角質をとり“ツルツル肌”をつくる効果や毛穴の汚れをとったりメラニンを分解したりすることによる“美肌効果”が認められています。

本源泉は効能の優れた療養泉に分類され、温泉分析書別表に一般適応症以外に『泉質別適応症』が付加される非常に恵まれた泉質です。

<一般適応症>

神経痛、筋肉痛、関節痛、五十肩、運動麻痺、関節のこわばり、うちみ、くじき、慢性消化器病、痔疾、冷え性、病後回復期、疲労回復、健康増進

■ 含(弱)放射能の特徴と適応症

放射能(ラドンRn)を含んだ温泉は、入浴と深呼吸によって、一層効果が深まります。吸入の際は鼻呼吸をすると、より効率よく体内に吸収されます。呼吸をすることでラドンが肺の中に入り、肺から血管をとおり全身の細胞を刺激していきます。体内で刺激を受けた細胞が、異物を追い出そうとして活性化し、新陳代謝を促進して体の酸化(老化)を防ぎます。

<ラドンの適応症>

痛風、動脈硬化症、高血圧症、慢性胆嚢炎、胆石症、慢性皮膚病、慢性婦人病

■ 塩化物泉の特徴

血液の循環を促進し、殺菌力が強く、痛みを和らげる鎮静効果がある。
浴後に皮膚に塩分が付着して汗の蒸発を防ぐため、保温効果が良く「熱の湯」と呼ばれています。

<塩化物泉の適応症>

切り傷、火傷、慢性皮膚病、虚弱児童、慢性婦人病



瀬戸内温泉

たまの湯

